



1月は正月休みの延長でぼーっとしているうちにあっという間に半分が過ぎ、急に心配になってやらなければならない作業を考えてみたら、あら大変、今月の雑誌の原稿がまったく頭になかった。さあ、何をかいたらいいんだろう。専門誌だからあんまりいいかげんなことはかけないしなー。ああそうだ、5月の緑化フェア用パンフレットの原稿もさっさと書けと言って来るんだろーなー。とああ、あの怠惰な日々をやっておけばよかったと遅まきながらパニックに襲われて、すべて「ああー」状態でおろおろとしています。われながらなさけないが、ものを考えるという手法というか技術はなかなか確立できない。特に最初のとっかかりがさ

まざままで、むなく窓の外の羽田に離着陸している飛行機を見ていたりする。やむなく何しろ手を動かさなければと思いついて線を引き始める。途中までいけば一気に作業は早くなって何とかできるのだが、そこまでが大変です。など書いていたら、「建設物価」の今月号がもう届いてしまったし、さっそくピクサイトの緑化フェアの連絡も来た。5月27日の12時からだそう。何を話したらいいんだろーと思っていたら、なーんだ他の講師の方々にも「早く話すタイトルくらい決めてください。」とメールが入っていた。なんだか安心した。みんなで遅れば怖くない。などと事務局長にはとっても見せられない文章だなー。と書いたら今度は「ノーム通信はどーした。」とメールが来た。しかし今はみんな振り切って頭を農山村振興問題に切り替えて、地域の望ましい将来像やゾーニング、キャッチフレーズなどを考えなくてははいけない。ああそーだこの間の山村でやったワークショップもまとめなくては。ああ、ああ……請求書がたくさん来ているんだ、借金してこなきゃなあー……と。

今頃気の利いたクマやかえるは冬眠でもしているだろうに、なんで人間は冬眠できないんだろーとしみじみ思います。私はできそーな気がしています。日本国政府が追い詰められたり働きすぎている人間から順番に冬眠許可証でも発行すればいいのに。私あたりはもうそのまま起きなくてもいいような気がしているのだが、だれかそんな手を考えてくれないかなー。

そんなおろおろしている毎日ですが、「まなざし」の編集日も手伝っていただいている女性陣に温泉に逃げられてしまった。どーしょーかと思っていたら一番の若手がもっと若手の未成年を手伝いに引っ張ってきて助かった。なんだか山椒大夫とか女衞(ぜげん)なんて単語が頭をかすめるが何でもいいのだ。まあ、そんなで、今年も先の見通しはまったく立たないが、1寸先は明るい場合だってあるのだから、おろおろしつつなんとかやっついこうと思っています。

2月の「まなざし」の編集は14日におこないます。手伝いのかたはよろしく願いいたします。

<http://www.interq.or.jp/japan/gnomes/gnomes1>

TEL/FAX 03-5600-0195

高村 哲

GnomesJpn@aol.com